

考古学研究室報告

第 49 集

平原古墳群調査報告 2

2013年度 考古学研究室の足跡

2014

熊本大学文学部考古学研究室

表紙写真：北1トレンチ全景（北から）
裏表紙写真：宿舎から見る阿蘇五岳

序 文

熊本大学考古学研究室は、今年度で創設40周年を迎えた。

1972年4月、熊本大学法文学部に國分直一教授が着任され、国史学講座Bにおいて考古学専攻学生の実質的な受け入れが開始された。そして、1974年4月、国立大学では10番目の考古学講座が熊本大学に設置された。

それ以来、熊本大学考古学研究室では、発掘調査と整理作業に重点をおく実践的教育体制を基本として、毎年、九州各地で実習発掘調査を実施し、調査終了後にはすみやかに整理・検討作業を開始、可能な限りその年度のうちに『考古学研究室報告』（1997年以前は『研究室活動報告』）として発掘調査の成果を公表してきた。こうした一連の作業を通じて、学生たちは考古学調査・研究の基礎を身につけ、具体的な考古資料から論理的に事実を組み上げていく学問手法を学んできた。

しかし、このような教育を支える実習地の毎年の確保はかならずしも容易ではなく、まがりなりにも今日まで続けることができているのは、学内外の関係者の尽力、受け入れ自治体や地元住民の方々の協力があつたればこそである。深甚なる感謝の念を捧げたいと思う。

さて、2013年度も昨年度に引き続き、阿蘇谷北縁の外輪山裾に所在する平原古墳群を実習地に選択した。2年目の発掘調査ということもあり、宿舎として借用する阿蘇市山田公民館に到着すると、なつかしい故郷に帰ってきたようにさえ思えた。調査は当初順調に進んだが、8月下旬は雨続きで開店休業の状態が長く続いた。予定していた現地説明会も、台風接近のため中止せざるをえなかった。日頃お世話になっている地元の皆様に、我々の調査成果を知っていただき、また地域の文化財の意義をご説明する機会をもつことができなかったのは、また、学生たちがみずからの言葉で調査内容をお伝えする機会を失ったことは、かえすがえすも残念であつた。次年度は、何としても調査現場をみていただくことができるよう工夫したいと思う。

近年、全国的に考古学を専攻する学生の数が減っていると聞く。また、地方自治体が文化財専門職員を募集しても、応募者がとても少ないらしい。考古学という学問の魅力がなくなってきたのか、あるいはほかの要因があるのか慎重に見極める必要があるが、大学人の私たちがすべきことは、考古学調査・研究の基礎的知識・技術を確実に身につけた人材、そして考古学を学ぶことの意味について深く考え、また人間や人間社会について深く洞察することができる人材を育てることである。

41年目以降も、熊本大学考古学研究室に対してあたたかいご支援ときびしいご指導をお願いしたいと思う。

2014年1月20日

杉 井 健

平原古墳群調査報告2



平原6号墳北1トレンチ作業風景 2013/8/21

例 言

1. 本書は、熊本県阿蘇市山田字平原に所在する平原古墳群の調査報告書である。本書では、平原490番地に所在する6号墳の調査のうち、第4次調査の成果を報告する。
2. 調査期間は、2013年8月18日から9月14日までの計28日間である。
3. 調査は熊本大学文学部考古学研究室を主体とし、阿蘇市教育委員会の協力を得て実施した。調査には科学研究費補助金（基盤研究B・研究代表者杉井健および基盤研究A・研究代表者福永伸哉）の一部を使用した。
4. 調査担当者は、杉井健（熊本大学文学部准教授）と甲斐郁（同社会文化科学研究科博士前期課程1年生）である。
5. 平原古墳群に対する考古学的調査は、今回の調査以前にも実施されている。それを含めて、次のように調査次数を整理する。
 - 第1次調査 調査年：1981～1983年
調査内容：1981年 1号墳の発掘調査
1982・1983年 2～4号墳（4号墳は現在の6号墳に一致）の測量調査
調査主体：1981年 熊本県教育委員会
1982・1983年 熊本短期大学（現熊本学園大学）文化財研究会
 - 第2次調査 調査期間：2011年10月14・16・23日、11月1～7日、2012年4月29・30日
調査内容：6・7号墳の測量調査
調査主体：熊本大学文学部考古学研究室
 - 第3次調査 調査期間：2012年8月19日～9月15日
調査内容：6号墳の発掘調査
調査主体：熊本大学文学部考古学研究室
 - 第4次調査 調査期間：2013年8月18日～9月14日
調査内容：6号墳の発掘調査
調査主体：熊本大学文学部考古学研究室
6. 本書におけるレベル高はすべて海拔を表し、方位は国土座標（2系）の北を示す。
7. 土層名の色調は『新版標準土色帖』による。
8. 第1図は国土地理院発行の5万分の1地形図（八方ヶ岳・菊池・御船・宮原・阿蘇山・高森）を、図版1-1は国土地理院保有の米軍撮影空中写真（USA-M100-49、1947年3月4日撮影）を複製したものである。
9. 石器石材の鑑定において、小畑弘己先生（熊本大学文学部教授）からご教示を賜った。
10. 調査および合宿、整理作業の実施にあたっては、以下の諸氏・諸機関からご協力とご援助を賜った。
宮本利邦（阿蘇市教育委員会）、緒方徹（阿蘇世界文化遺産推進室）、竹中克繁（宮崎市教育委員会）、大田黒元吉、佐伯朋史、日野満司、阿蘇市山田地区の方々、阿蘇市教育委員会、阿蘇世界文化遺産推進室、阿蘇市山田公民館
11. 調査参加者は以下のとおりである。
杉井健（熊本大学教員）、安田未来（同社会文化科学研究科博士前期課程2年生）、甲斐郁・留野優兵（同社会文化科学研究科博士前期課程1年生）、入江由真・岡田有矢・原梓・興嶺友紀也（同文学部4年生）、片山弘喜・富高敦史・中村聖美・山元瞭平（同文学部3年生）、津田祐美・豊永結花里・秦翔平・幣島莉香・松本夏織・宮崎大和（同文学部2年生）、竹村南洋（同文学部1年生）、井大樹（別府大学文学部3年生）
12. 本書の編集は杉井健の監修を受けて留野優兵が担当した。執筆分担は目次および各文末に示した。

本文目次

一 位置と環境	1
1. 地理的環境	津田祐美 1
2. 歴史的環境	3
(1) 阿蘇の原始・古代	3
弥生時代以前	松本夏織 3
古墳時代以降	幣島莉香 3
(2) 九州の壺形埴輪	中村聖美 4
二 調査経過	10
1. 過去の調査(第1～3次調査)	豊永結花里 10
2. 今回の調査(第4次調査)	宮崎大和 11
三 6号墳の埴丘構造	12
1. 埴丘の現状	秦 翔平 12
2. トレンチの設定	〃 12
3. 調査の所見	14
(1) 北1トレンチ	片山弘喜 14
(2) 西1トレンチ	富高敦史 16
(3) 南1トレンチ	留野優兵 18
4. 埴丘形態の復元	〃 19
四 出土遺物	22
1. 古墳に伴う遺物	山元瞭平 22
(1) 壺形埴輪(第3・4次調査出土)	22
(2) 土師器(第3・4次調査出土)	23
(3) 壺形埴輪・土師器の評価	23
2. 古墳に伴わない遺物(第4次調査出土)	留野優兵 26
五 まとめ	杉井 健・甲斐 郁 27

図版目次

図版1	1 空からみた平原古墳群とその周辺(丸が平原古墳群、右下隅に中通古墳群) (1947年3月4日撮影)
	2 平原6号墳の現状(北西から)
図版2	1 南1トレンチ全景(上が北)
	2 南1トレンチ葺石立面(南から)
	3 南1トレンチ全景(南東から)
図版3	北1トレンチ全景(北から)
図版4	1 北1トレンチ段築1段目葺石(上が南)

	2	北1トレンチ段築2段目葺石と段築テラス面（北から）
	3	北1トレンチ壺形埴輪出土状況（段築2段目基底石および転落石上）
図版5	1	西1トレンチ全景（上が東）
	2	西1トレンチ段築2段目葺石と段築テラス面（西から）
	3	西1トレンチ全景（南西から）
図版6	1	平原6号墳出土壺形埴輪（1）
	2	平原6号墳出土壺形埴輪（2）
図版7		平原6号墳出土壺形埴輪（3）
図版8		平原6号墳出土壺形埴輪（4）

挿 図 目 次

第1図	阿蘇地域の地形と平原古墳群の位置……………	（安田編2013より）…	1
第2図	九州出土壺形埴輪の諸例……………	（中村製図）	5
第3図	九州における壺形埴輪出土古墳の分布……………	（津田作成）	7
第4図	平原6・7号墳測量図（東側の円丘が6号墳）……………		13
第5図	トレンチ配置図……………		14
第6図	北1トレンチ平面図・断面図・立面図……………	（片山製図）	15
第7図	西1トレンチ平面図・断面図・立面図……………	（富高製図）	17
第8図	南1トレンチ平面図・断面図・立面図……………	（留野製図）	18
第9図	平原6号墳墳丘形態復元図……………	（杉井作成）	21
第10図	平原6号墳出土壺形埴輪実測図（1）……………	（山元製図）	24
第11図	平原6号墳出土壺形埴輪実測図（2）……………	（宮崎製図）	25
第12図	石器実測図……………	（留野製図）	26
第13図	石器写真……………	（留野撮影）	26
付 図	図版写真と実測図番号の対応……………	（秦製図）	

表 目 次

第1表	九州における壺形埴輪出土古墳一覧表……………	（中村作成）	8～9
第2表	平原古墳群基準点の現場座標……………	（杉井作成）	11
第3表	平原古墳群基準点の国土座標（世界測地系）……………	（杉井作成）	11
第4表	平原6号墳墳丘各部位の計測値……………	（留野作成）	20
第5表	平原6号墳出土壺形埴輪一覧表……………	（山元作成）	25